



## 【去来現（こらいげん）】作 早乙女 須洋

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院  
横浜市港南区日野一ー十一八

FAXTEL  
(〇四五) 841-1343  
(〇四五) 841-3428  
(http://www.yokohama-oootani.com)



本願力

動き出す  
神奈川教化センターVOL・7  
輪番 坂田 智亮

この数年、私がお世話になり  
お力添えを頂いた多くの先達、  
大切な時間を共にしてきた友が  
どんどん足早に浄土へ還つて往  
く。そのたびに悲しく寂しく切  
なく、この私も遠からずとの思  
いが否応なしに去来して、人生  
の意義を改めて問わざるを得な  
いのである。

「生死無常のことわり、くわし  
く如來のときおかせおわしまし  
てそうろううえは」『末燈鈔』

このところ、この厳しいお言  
葉を大切に反芻しているような  
葉を大切に反芻しているような  
次第であります。

過日、石牟礼道子さんが亡く  
なられた。不知火海、恵の海と  
ともにあつた人々の暮らしがい  
かに奪われていったか、水俣の  
生活を通して、公害や環境の破  
壊にとどまらない近代の価値を  
問うていかれた石牟礼さん、人  
間の愚行と向かい合うその原点

は常に名もなき民衆への深い信  
頼と尊敬であつたようと思ふ。  
「祈るべき天と思えども天の病  
つかしく候 みなみまぼろし  
のえにしなり」いずれも、水俣  
の現実凝視から逃れた言葉で  
あるがゆえに、その思索の深さ  
に驚嘆し深い領きを覚えるので  
ある。

この横浜はある意味日本の近代化の象徴的存在と言えよう。開港百五十年、電話・鉄道・ガス灯、はたまたビール・アイス・食パン等々日本初がドンと並ぶ。近代化を成し遂げるために成長を最優先し、欲望をかきたてる政治や科学への信頼、繁榮に酔い効率に走る枠組みは何があつても何も変わらず、矛盾に目を向けぬ人々が再生産され、その結果、大切な何かを喪失し、破壊してしまつたように思うのは私だけであろうか。

平昌冬季オリンピック、スケートの小平奈緒さんは、レース後の韓国選手との抱擁シーンが印象的であった。ライバルでありつつ特別な交流があつたそうである。競い合い、励ましあい尊敬し合える友達がいる。敵愾心、嫉妬心を持ちながらも、国、民族を超えてつながるその

姿は、微笑ましく、ささやかな歓びを感じたものである。

人間の求めてきたものは、欲望満足、便利で快適な生活空間の実現ではなく、ともに生きる世界の共有であったはずである。理想・理念、夢と現実との落差に生ずる悲しみと悩み、そこに教えを聞く手がかりがあるようだ。

別院・教化センターの使命は、時代社会に行き詰まり、苦悩する人々に本願念佛によつて、今一度、人生を獲得し直す場を創出することであることは間違いない。根源的「やさしさときびしさ」が実感でき交流できる「時と場」をどこまでも追い続けたい。

今月は、愈々グリーフケアの研修会が始動する。

## 元気なお寺づくり講座第一回・第二回

講師 竹原 了珠 師

元気なお寺づくり講座は、各寺院が元気になる実現可能な寺業計画書を作成するための講座として開講されている。第一回目は、昨年十二月十四日に開講され、今年に入り第二回目が一月十七日、第三回目が二月十四日に行われ、全五回日程の内三回の講座が終了した。

第一回目の講座は外部環境の講義を受け、参加者はそれぞれのお寺の外部環境を機会（チャンス）と脅威（ピンチ）とに分けるワークを行つた。

第二回目は、初めに無形の価値の説明があり、それぞれの班で「無形の価値の棚卸し」のワークを行つた。無形の価値とは、

人の力、組織の力、関係性の力など、お寺の目に見えない強みのことであり、ワークをおおしてそれぞれのお寺の目に見えない強みを明確化する作業を行つた。次に「ビジョンにつながるアイデア出し」のワークを行つた。「ビジョンにつながるアイデア出し」とは、外部環境における機会と無形の価値におけるお寺の強みを整理し、それを踏まえてそれぞれのお寺の目標したい将来像（ビジョン）、具体的なアイデアを参加者が思いつくままに書き出していく作業のことである。次に、その出し合ったアイデアを二つに絞り、アイデア毎に、無形の価値（強み）と外部環境（機会と脅威）を整理するワークを行つた。最後に、お寺のビジョン（将来像）を各班ごとで考えるワークを行い、第二回の講座は終了した。講座の初めと終わりに、チェックインとチェックアウトという参加者が一言コメントを発言する時間があるのだが、チェックアウトでは難しかつたというコメントが多くつた。私自身参加者として難しいという印象を受けた。それは説明を飲み込む前にワークに入り、作業に追われ、忙しく終わつたという印象が難しいという感覚につながっているのではないかと思う。



団体参拝ありがとうございました

第三回目は、マーケティングの基本講義と、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングという考え方の説明を受けた。続いて、事前に配布されていた、架空のお寺のケーススタディと架空の行動計画書（お寺のビジョン、外部環境、無形の価値、お寺の使命）をもとに、架空のお寺の報恩講をどのように再興できるのかを、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングという考え方を利用して各班ごとにワークし発表を行つた。今回は架空のお寺の事業計画書を作成するワークであつたが、次回からは各寺院が各寺院ごとに事業計画書を作成するワークがスタートする。今回で3回の講座が終了した。第一回目、二回目の講座では漠然としていた作業が、三回目の講座を終えて、こうしたことであつたのかと明るくなつた感じがしている。第四回目の講座に向けて寺業計画書を作成する宿題がある。今までの作業をとおして明るくなつた視点でどういう寺業が考えられるのか面白くなつてきたよう感じている。

（文責 佐竹）

【2月5日 茨城一組ご一行様】

### 三浦組寺子屋

「念佛のある生活・教えに出遇う」

講師 藤原 正寿 師

去る二月十六日、三浦組西來寺（横須賀市）を会場に「寺子屋」が開催されました。

寺子屋とは、江戸時代の上方において、寺院で手習師匠が町人の子弟に読み書き・そろばん等を教えた学問施設のことを目指します。三浦組では門徒さんたちに親しみのある聞法の場として「寺子屋」が開かれていました。六十三名の参加者があり、本堂全體が熱気で包まれていました。

講師の藤原正寿師は、念佛のある生活についてお話をされました。藤原先生は、念佛のある生活とは、どのような生活なのかを問い合わせにして、「親鸞聖人は仏法を聞いて、念佛をすると救われるとはおっしゃっています。仏法を聞くことがそのまま信心を得るとということである。」とまず始めにおっしゃられました。「念佛を通して、仏法を聞くことの大さに気付くことで、大切にする。阿弥陀仏の本願を自分の中心に置くことは、仏法をいただきながら生活するということです。つまり、今まで座り込んでいた自分に気付くということです。ごお念佛のない生活でも生きていけるが、阿弥陀仏の側から、それで大丈夫ですか？と、こちら側に督促状が届いているんです。ご催促とも表現できますが、仏法のある生活とは、本当に自分の大切なものを考えるご

縁に出遇つていくことです。阿弥陀仏は、実際の仏さまではなく、救つてくださるはたらきのことです。人間の苦悩をご縁として、仏さまに出遇つて欲しいというのは、仏さまの願いなんですね。仏さまの呼び声に耳を傾ける生活が念佛のある生活につながっていいくわけです。」

お話を聞いている内に、私は藤原先生の力強い言葉ひとつ一つに元気づけられる思いになりました。念佛を申す生活をすることは、ややもすれば、自分が念佛しているよう思つてしまふが、実は仏さまの側からのお呼び声であつたんだと、その仏さまが大変なはたらきをしてくださつていてるんだと、そう感じました。

「如是我聞」として聞かせていただくことから始まり、仏法を聞くことがそのまま信心をいただくことになります。今回も尊いご縁を頂きましたことに感謝しております。

（文責 家本）



→ 講師 藤原師

→ 寺子屋の様子

### 《神奈川四ヶ組行事予定表》

《横浜組》  
【横浜組門徒研修会】

【日時】五月三十一日（木）午後一時半

【講師】瓜生崇 師（京都教区玄照寺住職）

【会場】本願寺横浜別院

【日時】三月六日（火）午後一時

【講師】荒山 淳 師  
〔第三回〕  
〔第二回〕

〔名古屋教区教化センター主幹〕  
【会場】淨榮寺（横須賀市吉倉町）

【日時】四月九日（月）午後一時  
〔講師〕黒田進 師（長浜教区満立寺住職）

【会場】來福寺（三浦市南下浦町上宮田）

**本願寺横浜別ホームページ  
リニューアル！**

二月より、ホームページをリニューアル予定です。以前よりも、使いやすく見やすくなっています。ぜひご覧下さい  
<http://www.yokohama-ootani.com/honganji/>

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2018年3月～4月  
～どなたもご自由にお参りください～

**定例法話** 午後1時30分より

3月9日(金)横浜組 良泉寺本郷 成道師

3月28日(水)別院 輪 番坂田 智亮師

4月9日(月)湘南組 正恩寺 鞠川 卓史師

4月28日(土)別院 輪 番坂田 智亮師

**横浜別院同朋の会** 午後1時30分より

4月18日（水）同朋の会日帰り旅行の事前学習会を行ないます。『親鸞聖人とその弟子』

※3月18日の同朋の会は休みです。

**春季彼岸会法要** 午後1時30分より

3月20日（火）、21日（水・祝）

**【法話】近藤 龍磨 師**

(岐阜教区第一組 廣専寺住職)

ご門徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。さて、春のお彼岸が近づいて参りました。当別院では「春季彼岸会法要」をお勤め致します。お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、あらためてそのような問いかけに耳をかたむけ、自分の生活を振り返る大切な時なのです。

そろってご参詣ください。

### 別院同朋の会日帰り研修旅行

5月12日（土）

**【行程】茨城県方面**

（親鸞聖人御旧跡・二十四輩）

**【参加費】7,000円（予定）**

**【願い】**昨年は箱根における親鸞聖人御旧跡を散策しましたが、今年は親鸞聖人御旧跡・二十四人輩を散策する計画を立てています。

二十四輩（にじゅうよはい）は、親鸞の関東時代の高弟24人と、その24人を開基とする寺院のことです。

※詳細は別院までお問い合わせ下さい。

日程等の変更がある場合がありますので、ご了承ください。

### 第26回神奈川ブロック聖典学習会

4月13日（金）

午前10時45分～午後4時

**【講師】三木彰円 師（大谷大学准教授）**

**【学習聖典】『一念多念文意』**

**【会場】本願寺横浜別院**

(横浜市港南区日野1-10-8)

※駐車場16台あります。

**【参加費】1,000円**

**【携行品】**念珠、勤行本、真宗聖典、筆記用具

**【聴講対象】**寺院、一般希望者

※参加申込は不要です。直接会場にお越し下さい。第27回は6月29日（金）です。

表紙の絵画は、今回で二回目の掲載となりました。春のイメージと言つたら、「桜」でしょうか。厳しい寒さであつた冬がいいよ終わり、桜舞い散る季節がもうすぐやります。生命的の息吹を感じます。（家本）

### 編集後記

※去・来・現・過去・現在・未来のこと

横浜組智廣寺門徒

早乙女 須洋

タイトル【去來現】私は桜の花よりもそれと一緒に成長する幹や枝に、威風堂々たる立ち姿、他の木立と異なり、成長方向を直感的に変化させながら、花の美しさを最大限に導きだしていきます。早朝の静けさのなか、力強く支えられている、ひかり輝く花を描きました。

### 絵画について